

2021年6月10日
世界自動車調査月報編集長 安藤 久史

世界自動車生産、2020年は推定7,810万台、2021年予測は8,500万台程度

謹啓 時下益々清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、当社の調査・出版業務にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、当社では『FOURIN 世界自動車調査月報』2021年6月号(2021年6月10日発刊)にて、「2020年の世界48ヵ国の自動車生産台数」をテーマとしたレポートを取りまとめましたので、ご案内申し上げます。

- 2020年は前年比15.8%減(1,460万台減)の7,810万台となり、2010年以来の8,000万台割れ。
- トヨタグループが同6.1%減の1,037万台と、唯一1,000万台超を維持。
- 2021年は半導体不足など外的要因にもよるが、8,500万台程度まで回復する可能性。

2020年の世界48ヵ国の推定自動車生産台数を、FOURINが取りまとめたところ、前年比15.8%減の7,814万台となりました(各国自動車工業会およびそれに準ずる機関が発表するデータを基に、自動車メーカーベースで集計)。3年連続で減少し、2010年以来の8,000万台割れとなりました。コロナ禍による市場縮小や、感染防止を目的とした工場の一時稼働停止などが影響しました。

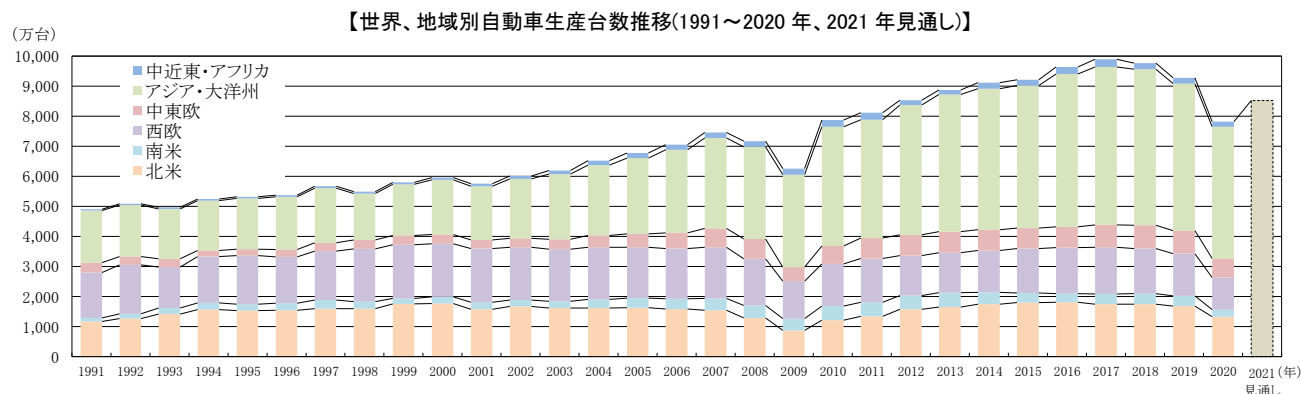
メーカー別では、トヨタグループが同6.1%減の1,037万台と、唯一1,000万台超を維持。ただし、2020年は同年2月にトヨタがSUBARUへの出資比率を20%へ引き上げ、SUBARUを同グループに加えたため生産台数が上乗せされた形です。前年まで1,000万台規模の生産を維持していたVWグループは同17.7%減の896万台に減少しました。

2021年の世界自動車生産台数については、先進国を中心に新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、市場の回復に伴い需要は高まっていますが、半導体の供給不足が懸念材料として浮上しております。ただコロナ禍で落ち込んだ市場は、各国政府による経済支援策などもあり着実に回復傾向を示しているため、生産規模も2020年を上回るのは確実とみられます。半導体不足など外的要因にもよりますが、生産規模としては8,500万台程度まで回復する可能性があります。

ご参考までに、『FOURIN 世界自動車調査月報』2021年6月号に掲載しますグラフを下記に掲載いたしました。

当プレスリリース内容に関してのご不明な点やご質問は、『FOURIN 世界自動車調査月報』編集長の安藤(TEL: 052-789-1143、FAX: 052-789-0966、E-mail: h.ando@fourin.com)までご連絡ください。

敬 具



注)一部推定含む。

(各国自工会データ及びそれに準ずる機関のデータより FOURIN 作成)